

# 京舞台に国政論争



訴える国会議員—京都市南区  
京都市議選候補(右)への支持をマイクで

地域からの  
**選択**  
2015 統一地方選

統一地方選前半の京都府議選、京都市議選の投開票日(12日)に向け、各党の国會議員が奔走している。地方創生や安全保障政策など、国政での論争も関連しながら他党との違いを打ち出し、幅広い支持を呼びかけている。一方で、国会議員がいないうちの政治団体は独自の取り組みを進めている。(統一地方選取材班)

## 国会議員が応援奔走

### 与党強調 地方創生／軽減税率 野党力説 護憲／身を切る改革

自民党府連会長の西田昌司参院議員は、国会審議の合間に縫つて京都入りを重ねる。個人演説会や街頭演説で、地方創生やデフレ脱却の重要性と党公認候補への支援を訴える。選舉前の決起集会出席も含めて全陣営を回る予定で、「府連として統一地方選に徹底的に取り組む姿勢を示し、各陣営のさらなる奮起を促したい」と話す。

民主党府連会長の泉健太衆院議員は選挙カーに乗り、毎日3会場の個人演説会で弁士を務め、ミニ集会にも参加する。4日、伏見区で開いた市議選現職の個人演説会では「民主の評判は国会議員が落とした。地方議員は何の問題も起こしていない。市議選で自民が取りすぎれば議会のチェック機能が落ちる。民主を大成させてほしい」と訴えた。

公明党府本代表の竹内譲衆院議員は5日、左京区で市議選現職とともに支持を呼び掛けた。党が進める消費税への軽減税率導入実現を強調。安保法制を巡って他党が「戦争立法」と批判することに、「われわれは平和の党。いわなき誹謗中傷だ」と語氣を強めた。国会の日程もあるが、「厳しい選挙区も多く、再び駆けつける」という。

共産党は府委員長も務めた党副委員長の市田忠義参院議員が3日に京都入り。左京区で「戦争か平和か。日本の前途と

命と暮らしが懸かつた大事な選挙」と訴えた。地元選出の倉林明子参院議員らも連日マイクを握る。党にとっては、来夏の参院選で選挙区議席を獲得できるかが焦点。参院選の立候補予定者が街頭演説や演説会に参加している。

地元関係の国会議員がいない党も、党幹部が応援に入る。

維新の党は6日、江田憲司代表が伏見区で、府議選新人の応援に入った。演説で国会議員に歳費とは別に月100万円支給される文書通信交通滞在費について維新が使途を公開する法案を出したが、他党は見向きもしなかったと指摘。「国会はぬるま湯につかりきっている」と批判した。

社民党は福島瑞穂副党首が5日、市議選新人の応援に南区で街頭演説。「統一地方選が終わったら戦争立法が提案される。今回の選挙を安倍政権退陣の第一歩にしたい」と強調。来夏の参院選後は憲法改正が発議されるとも訴え、「平和憲法を守るために戦う」と党への支援も求めた。

一方、地域政党の京都党は国会議員がない。金森隆代表代行は「市民の力で戦う」と力を込める。「応援を頼むと地方議員が党のいいなりになってしまう。地方議員が党の仕事だ」と話す。

政治団体「市民ネットワーク・きょう」とも国政政党とつながりはないが、候補者と知り合いの国会議員が応援に入れる。「生活の党と山本太郎となかまたち」共同代表の山本太郎参院議員がインター ネットで応援動画を公開している。